



## 宮司プレス 九十三号

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十六年三月七日

◇宮司の柴田です。

先々月に、発行できなかった宮司プレスですが、先月に二回発行すれば、一月に一回のペースは守られて、来る九月には、待望の百号発行と思いきや、悪しきルーティン(手順)が、定着しつつあります。 みなさん、お待たせしました。 一月遅れの宮司プレス第九十三号の発行です。

◇春という漢字の甲骨文字(こうこつもじ)は、桑(くわ)の芽(め)が伸びきった姿を表しているそうです。 芽生(めげ)えた新しい命が、暖かい日差しに、その芽を伸ばし張りつめる季節なのですが、このところの冷え込みは、まさしく、残寒きびしきものがありますね。 実は、「春」の枕詞(まくらことば)は、「冬籠(ふゆこも)り」です。 とかく、お正月は、晴れやかで賑々(にぎにぎ)しいものだと考えがちですが、その逆で、心静かに時を過(こ)し、力を蓄(たくわ)える、いわゆる、「お籠り」をする時なのですね。 では、その「お籠り」の目的はと申しますと、当宮では、二月十七日、さらに、六連島八幡

宮では、二十五日、田の首八幡宮では、二十

七日に執り行いました「祈年祭(きねんさい)としごいのまつり」を厳肅(げんしゆく)に奉仕するためなのです。 年は、稲のことでありまして、「稔(ね)る」という漢字は、「ネン」とも読めるわけでありまして、まさしく、稲の豊かな稔りを祈るお祭りであるのです。

二月は、節分祭、前述(ぜんじゆつ)の祈年祭、さらに、建国祭と重要な祭典行事が多い月でもあります。一年で一番短い月なのです。 一月は、「行く」、二月は、「逃げる」、三月は、「去る」といわれていて、歳月(さいげつ)の流れが加速する時期なのだそうです。 しかしながら私は、加齢(かれい)とともに、時の流れの速度が増しているような気がしてなりません。 「もう三月」なのであります。 皆様方は、どのように、お感じでしょうか。 小学校のころには、「もう三学期、一年早いね」という会話はしなかったような気がしますよね。 「年寄りの一年は、早い」という人々の実感を、心理学で説き明かしたのが、「ジャーネの法則」なんだそう

です。 十九世紀のフランスの哲学者でもあり作家のポール・ジャネーという方が、説き明かした法則です。 「生涯のある時期における時間の心理的長さは、年齢の逆数に比例する」そうで、さらに、「主観的に記憶される年月の長さは、年少者にはより長く、年長者にはより短く評価される」のだそうです。

つまりは、私は、五十一歳であります。私にとつての一年は、人生の五十一分の一になります。 そう考えますと、私の一年は、五歳の十年に匹敵(ひつてき)することとなります。 ですから、人生が長くなればなるほど、心理的に一年が早く感じるのだそうです。 心理的には、早く感じられても、実際には同じ時間なのですけれどもね。 不思議ですね。 しかしながら、「時がたつのが早い」と悔やむより、加齢と共に加速するのが必然ならば、前向きに受け止め、「一日一生」の思いで生活をするよう心掛けることの方が、よりよい生活、生活の質の向上、クオリティ オブ ライフのような気がしませんか。 苦しく辛い時間は長く、逆に安楽で楽しい時間は短く、心配したり不幸な時を過(こ)す時間は長く、夢中になっていたり時や幸せな時間は短く感じますよね。 年を重ねるごとに、少しずつ幸せに暮らせるようになるからこそ、時のたつのもそれと同じようにすこしずつ早くなっ

ていく、そんな日々でありたいと願うもの  
あります。 今月の十一日は、東日本大震災  
より三年の歳月を迎えます。 今もなお、避  
難所での生活を余儀なくされている人々の  
時間は、どのように流れたでしょうか。 そ  
れを思うと、心がしめつけられます。

◇大自然は、時には甚大(じんだい)な災害  
を引き起こしますが、花を咲かせ実り、豊か  
な恵みを与えてくれます。 死語となりつつ  
ありますが、「厳父(げんぷ) 慈母(じぼ)」  
でありまして、厳しさと慈しみあふれる優し  
さを併せもっているのが、大自然の営みで、  
われわれは、大自然の中で生かされて生きて  
いるのですね。 そうであるとするならば、  
天地(あめつち)の恵みを恐れ敬い、そして、  
今ここにある命に感謝をして、その感謝の心  
を、同じ場所に住んでいる人々となぎ愛す  
る、そこに、運命共同体としての地域社会が  
築き上げられるのではないのでしょうか。 ま  
さしく、「天恐地敬人愛(てんききょうちけい  
じんあい)」であります。 皆様方の暮らし  
が、春の季節のように、のびやかに、時間が  
少しも変わらずにゆつくりと流れていきます  
ように、お祈り申し上げます。

二月の祭典行事報告

▼月次祭 \*二月一日、十五日

▼節分祭 \*二月三日

▼福浦稻荷神社初午祭 \*二月九日



▼横浜DeNAベイスターズ下関ファン集

いの会参拝 \*二月十日(右下の写真)

▼建国祭 \*二月十一日

◆彦島八幡宮 午前十時

◆下関市 午後二時十分

▼祈年祭

◆彦島八幡宮 \*二月十七日

◆六連島八幡宮 \*二月二十五日

◆田の首八幡宮 \*二月二十七日

▼YEG彦絆会(ひこはんかい)参拝

\*二月二十七日

◇二月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◇維蘇志会節分準備作業 \*二月二日

◇建国祭奉仕の維蘇志会反省会

\*二月十一日

◇神道会常任委員会 \*二月二十六日

◇維蘇志会役員会 \*二月二十日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇市建国祭打合せ \*二月五日

◇下関支部三役会 \*二月五日

◇支部神職病気お見舞い \*二月九日

◇建国青年の集い \*二月九日

◇神社庁役員会 \*二月十二日

◇支部長事務局長会議 \*二月十三日

◇神社庁例祭 \*二月十三日

◇教学研究調査研究合同委員会

\*二月十三日

◇中山道場四十周年記念剣道大会に神社

庁金長庁長代理で出席、祝辞を述べる

\*二月十五日

◇支部神宮参宮旅行打合せ \*二月一七日

◇防府天満宮御令嬢結婚披露宴出席

\*二月二十一日

▼西ロータリークラブ

◇例会 \*二月五日、十二日

▼講演活動

◇玄洋中二年生の立志式にて講演、演題は

「さはやかに生きる」 \*二月十七日

◇西山小三年生の町探検、「にしやまじま

ん見つけ」で、講演

\*二月二十一日

▼その他

◇社会福祉法人しおかぜの里保育園役員

会出席 \*二月八日

◇下関消防団彦島分団第六部、定期点検参

加 \*二月二十三日